

# 一側性難聴で発症したクラミジア上咽頭炎の一例

余田 敬子      西田 超

東京女子医科大学 東医療センター 耳鼻咽喉科

われわれは、一側性難聴で発症したクラミジア上咽頭炎の一例を経験したので報告する。

症例：19歳女性，大学生。既往症：10歳でアレルギー性鼻炎を指摘されたが放置。現病歴：平成23年8月31日より右耳閉感と難聴を自覚，9月1日に近医耳鼻咽喉科を受診，純音聴力検査正常，ティンパノグラム両側C型で，アレルギー性鼻炎に伴う耳管狭窄症と診断され抗アレルギー剤の内服治療を開始された。9月6日再診時に症状の改善がなく，また知人に突発性難聴患者がいたことから，難聴に関する精査を希望して，翌7日に当科へ紹介された。当科初診時：鼻粘膜の腫脹，上咽頭のアデノイド様腫瘍と，右耳鼓室に滲出液の貯留を認めた。経過：アレルギー性鼻炎，上咽頭炎，滲出性中耳炎と診断し，クラリスロマイシン（CAM）とカルボシステインを7日間処方した。13日，右滲出性中耳炎の所見は変わらず，アデノイド様腫瘍は若干縮小していた。特殊な上咽頭炎を疑い，上咽頭のスワブを淋菌およびクラミジアの核酸増幅検査であるSDA（Strand Displacement Amplification；鎖置換増幅）法に提出し，右鼓膜切開を実施，投薬を抗アレルギー薬に変更した。検査結果はクラミジア陽性，淋菌は陰性でクラミジア上咽頭炎と診断，いったん中止したCAMを27日から14日間投与した。10月18日には，上咽頭のアデノイド様腫瘍と口蓋扁桃は縮小，中耳炎も改善した。

上咽頭は多種多様な病原体の進入経路であり，結核や放線菌症ように比較的稀な病原体による上咽頭炎の報告は少なくない。クラミジアによる上咽頭炎は成人型封入体結膜炎患者の約半数に合併し，耳閉感などの耳症状，鼻閉，咽頭痛，頸部リンパ節腫脹を伴うと報告されている。性的活動期で耳症状を訴える患者の上咽頭所見でアデノイド様の腫瘍を認める時には，鑑別診断にクラミジア感染症を含めて対処することが望ましいと考える。